

2009年10月24日
第5回名古屋大学ホームカミングデー

ライフトピア地域支援研究センター の設立趣旨と概要

名古屋大学医学部保健学科長
榊原久孝

名古屋大学医学部保健学科の概要

保健学科

- 看護学専攻
- 放射線科学技術専攻
- 検査技術科学専攻
- 理学療法学専攻
- 作業療法学専攻

1学年定員

200名

+編入 26名

大学院医学系研究科

- 看護学専攻
- 医療技術学専攻
- リハビリテーション療法学専攻

前期課程 48名

後期課程 17名

ライフトピア構想 (大幸地区)

21世紀の少子高齢社会に対応する教育研究拠点の形成

- (1) 生活保健医療介護モデルの構築
- (2) 高齢者のための保健医療及び介護の技術開発
- (3) これを支える新たな人材育成

チエづくり

モノづくり

ヒトづくり

医工連携

産官学連携

大幸地区再開発



ライフトピア地域支援研究センター の基本理念

- 少子高齢社会に対応した新しい保健医療モデルの開発を行う専攻・分野横断型の研究・教育拠点。
- 保健医療専門家や関連研究機関・医療介護施設などとの連携拠点。
- 患者家族支援の保健医療モデルの実践拠点として、研究—教育—モデル実践の三位一体とした複合施設。

平成20年、本館改築の全学共用スペースを活用して設置

名大に医療・介護 研究拠点

名古屋大は、少子高齢化社会に対応した医療・介護技術の開発や人材育成を目的とした研究教育拠点「ライフトピア連携地域支援研究センター」を五月、医学部保健学科のある名古屋市東区の大幸医療センターに開設する。名大によると、少子高齢化社会をテーマに医療・介護を研究する拠点施設は全国的に珍しい。

少子高齢化社会では育児支援、終末期を含めた高齢者の介護、家族の生活支援のモデルづくりが緊急課題。しかし、これまでの医療は、病気の原因追求が中心で、患者や家族を含めた支援分野の研究が進んでいなかった。

研究は、①看護やリハビリなどに精通した人材養成②がん緩和ケア③地域高齢者の健康増進④次世代育成支援⑤高齢者の生活向上支援⑥医療情報解析応用の六つのプロジェクト

技術開発や人材育成

トを設定。縦割りで研究活動をしていた保健学科の教員や大学院生を集約する。高齢者の生活向上支援では、排せつケア、次世代育成支援では発達障害児を持つ家族の支援などのテーマがある。研究は、実際に患者や家族とかわりながら進める。

担当する医学部保健学科の榊原久孝教授は「子どもから高齢者まで患者、家族を含めた医療・介護のモデルをつくり、成果を発信したい」と話している。

ライフピア地域支援研究センターの研究プロジェクト

1. **THP人材育成** (担当: 奈良間、榊原)
2. **がん緩和 ケア** (担当: 安藤、前川、阿部)
3. **地域高齢者ヘルスプロモーション**
 - 地域高齢者ヘルスプロモーション研究室 (担当: 堀、榊原)
 - 遺伝子多型診断研究室 (担当: 近藤、浜島)
 - 健康長寿研究室 (担当: 野田、古池)
4. **次世代育成支援** (担当: 奈良間、浅野、鈴木)
5. **高齢者QOL支援**
 - 排泄ケア支援研究室 (担当: 鈴木重)
 - 高齢者フィットネス研究室 (担当: 山田)
 - 住環境実験室 (担当: 鈴木國、清水)
6. **医療情報解析応用**
 - 医療画像情報高度応用研究室 (担当: 伊藤、島本)
 - 医用画像数理解析研究室 (担当: 池田)

事業内容

- 少子高齢社会対応の保健医療介護モデルの研究
技術開発
- 保健医療モデルを開発実践する人材育成、若手研
究者育成
- 保健医療介護専門職・実践家との連携・支援活動
- ライフピア連携研究会や研究成果報告会など
での研究成果の公表
- 公開講座の開催などによる医学医療情報の発信
- 相談外来・窓口などの開設による地域貢献の推進

研究—教育—モデル実践の三位一体の活動